

4 日本風景街道の新たな展開

ITS・新道路創生本部研究員
宇理須寛恭

日本風景街道は、道路並びにその沿道や周辺地域を舞台に、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源や個性を活かした国民的な原風景を創成する運動を促し、観光の振興や地域の活性化に寄与することを目的とした取組みであり、現在では107箇所もの風景街道が登録されている（平成19年9月から登録開始）。本調査では、日本風景街道を取り巻く状況やニーズの変化について把握するとともに、それに合致した支援メニューを立案した。

(1) 活動の継続化と質の向上

登録された風景街道も、活動上の課題や悩みも多く、「立ち上げ段階」や「活動の質の向上を図る段階」に属する風景街道が全体の約9割を占める状況である（H20に実施した活動団体に対するアンケートの結果）。

風景街道の活動を維持し、継続させていくためには、活動上の悩みや課題を的確に把握し、それらに対応した支援策を立案するとともに、継続化へ向けた具体的な方策を立案することが重要である。

支援メニュー案としては、アドバイザー制度の活用、ベストプラクティスの活用、支援施策集の活用、民間との連携による商品展開等が考えられ、活動の継続

化に向けた具体策としては、自己評価制度の構築、支援施策集の充実、アドバイザー制度の充実、広報・周知の実施が考えられる。

また、民間企業等との連携を促進し、風景街道の活動の質の向上、情報の幅広い周知を図っていくためには、風景街道に関する質（鮮度・精度）の高い情報について利用しやすい環境を整えることが必要である。

そこで、民間企業等と連携して、「日本風景街道データベース」を活用した情報提供の仕組みの構築に関する検討を行うとともに、これを活用した日本風景街道の普及・活性化策に関する検討および試行を行い、効果・課題を把握した。

(2) 新たな展開事例

日本風景街道の新たな展開事例としては、美しい沿道景観を持った道も多くの方に知っていただき、地域とのふれあいを通じた楽しいドライブを実現するために、ホンダイインターナビによる風景街道のもつ様々なルート情報の提供に関する試行を実施した。地域からの要望を勘案し、「なごみの伊豆 なごみの道」風景街道、「渥美半島菜の花浪漫街道」、「むれ源平石あかりロード」、「源平ロマン街道」の4つの風景街道を試行対象としてそれぞれの「おすすめコース」を設定し、平成21年3月からインターネットホームページおよびカーナビゲーションを用いて情報を配信した。

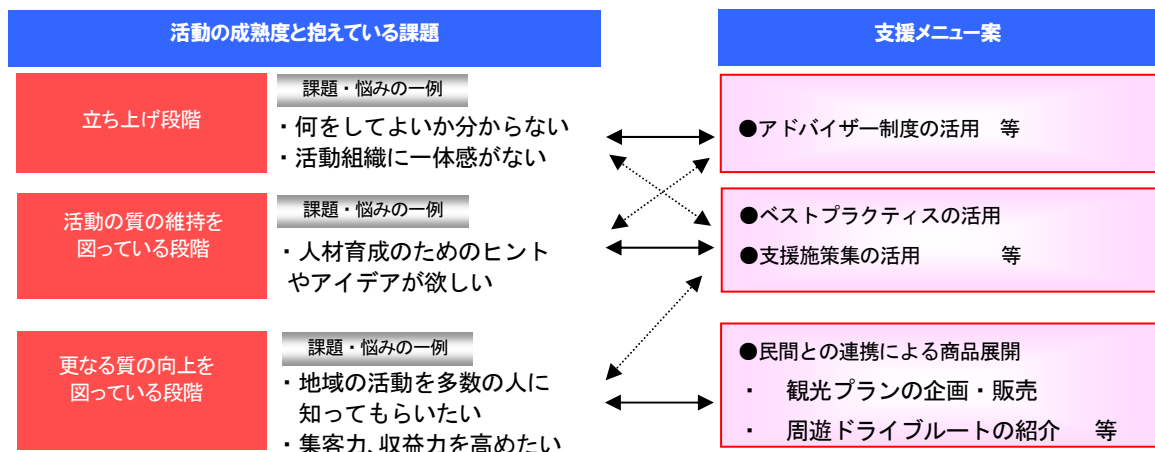
また日本自動車連盟（JAF）がホームページ上で展開している「JAFナビ（おすすめドライブコース）」において、全国の風景街道をコンテンツとして活用したドライブコースを作成・掲載することで日本風景街道の周知促進を図るとともに自動車を活用したドライブコースを作成・掲載することで日本風景街道の周知促進を図るとともに自動車を活用した旅行需要の拡大を目指す取組みを開始した。

(3) 今後の課題

現在登録されている風景街道の大半は登録時から活動の成熟度を上げることに苦慮しており、本調査では日本風景街道の更なる発展、取組みの定着化を図っていくために「活動の継続化」および「活動の質の向上」をテーマに必要な対応策の検討や試行実験等を実施した。

この中でもホンダイインターナビとの連携によるカーナビでの風景街道情報の提供は、民間企業側に限らず地域側にも高い要望があることが確認できた。

民間企業との連携を活用した「民間企業等による評価制度の枠組み」について検討を進めているところであるが、民間企業側の連携に関するインセンティブは風景街道に関する質の高い情報であると考えられる。今後は風景街道に関する情報の質や鮮度を確保し、企業側が利用しやすい情報提供の仕組みの構築について試行実験等を通じた検証を行っていく予定である。



(活動の成熟度に対応した支援メニュー案)